

# ピアホームだより

2025. 3. 10

## 現場で出くわした薬物に関するあれこれ

ホームに来られた利用者さんは、いろんな困難を経験した挙句に当所にたどり着いた方が多く、お薬も葛藤の末の成果？色んな経過が重なって現在の処方至ったと言えると思います。

障害者総合支援法では、半年毎の個別支援計画が必要なのですが、つい見過ごしがちな各自に処方された薬剤について、とりわけ副作用として発生しているかもしれないものが、長期間続く中で当たり前となって見過ごされているかもしれない？という視点を忘れず取り組むことが必要との思いがしています。

そんな中で、最近出くわした抗精神病薬関連の事柄に対する必要な知識を思い起こすために、今回の便りに載せました。

### 1 クロルプロマジン換算

言われたしたのは、20年以上前でしょうか？その間、ドーパミン理論はゆるぎないものの、セロトニン系の果たす役割が大きな位置を占めて来ました。現在では、抗精神病薬は、定型抗精神病薬と非定型

抗精神病薬→非定型は SDA、MARTA、DPA に分類され、成分としては数十種類の。

クロルプロマジン換算とは、抗精神病作用がクロルプロマジン100mg に相当するその薬剤のミリ数を言います。前述のように次々出てくる新薬に対し、何ミリを使うかという感覚は時間を経ないと掴めないように思います。今回意識して換算を試みたところ投与量の感覚が掴めるという経験をしました。

#### 事例1)換算値が2Gになっていた

統合失調症歴20年を超える方で、今も妄想が取れませんがそれでもしっかり生活をされている方です。定型抗精神病薬も処方されていましたが、1年ぐらい前に整理されました。クロムプロマジン換算で2g を超えていました。症状の変化もなく生活は安定していますので、少しずつ減量の方向を探っていただくようお願いしました。

#### 事例2)お薬調整の程度を換算値で確認

症状が安定しない方で、ホーム受け入れた後も外泊を繰り返しています。

お薬の調整は身近な家族に任されており、調子が落ちると追加薬剤で短期間にクロルプロマジン換算で400mgを調整しています。顧問医の意見も聞きながら対処していますが、安定するまでどう調整するのがよいのか模索中です。医師によっては、3カ月ぐらいは様子を見るべきとの考えの方もあるとのこと

が、追加量、期間ともそれぞれ様子を見ながら、、、またおかれた環境も大きく影響するということです。いずれにしても、クロルプロマジン換算することで自分の経験から得た投与量感覚を掴むことが出来た例です。

### 2 非定型抗精神病薬の食欲増進作用について

夜間の食欲が止めにくく、主治医に相談したところ、ピレチアの処方を出された事例がありました。抗精神病薬の中には脳内の H1 受容体を遮断する作用があります。H1 受容体が遮断されると、体重増加や脂肪組織の増大、食欲増進作用のある グレリン という物質が分泌されてしまいます。食欲が増大して体重が増加するだけでなく、脂肪組織を増大する作用もあるため「食事の量が変わらないのに太ってきた」と報告されることがあります。そのため抗ヒスタミン作用のあるピレチアの処方がされたのでしょう。

抗精神病薬の中には セロトニン受容体(5HT2c) を遮断する作用があります。5HT2c受容体が遮断されると、H1 受容体同様、体重増加や脂肪組織の増大、食欲増進作用のある グレリン が分泌されてしまいます。そのため食欲亢進や脂肪組織が増大し体重増加が起こる可能性があります。

### 3月の予定

3月8日:理事会